

R7.8.7 研修参加者記入アンケートのまとめ

A: 本日の研修で印象に残ったこと・内容をご記入ください。

1. 子どもの「トキメキ・ヒラメキ・気づき」を捉える観察力の重要性

- ・子どもの姿を意識的に見ることの大切さを学び、日々の保育の中で小さな気づきやひらめきを見逃さないようにしたいと感じた。
- ・「課題」ではなく「良さ」に目を向けることで、子どもの内面にある成長の芽を育てる保育ができると実感した。
- ・一人一人の興味やきっかけを見守り、保育者自身がアンテナを張って関わる姿勢が求められることを再認識した。

2. 遊びを深めるための環境づくりと関わり方の工夫

- ・2歳児には「じっくり遊び込む」ことが大切で、展開よりも継続的な遊びを支える環境設定が必要だと学んだ。
- ・子どもが「やってみたい!」と思えるような素材や空間作りを通して、遊びが自然に発展することを意識したい。
- ・遊びが続かない子どもには、環境に「ときめき」があるかを見直し、見立て遊びや体験活動を通して遊びの広がりを支える工夫が必要だと感じた。

3. 振り返りとドキュメンテーションによる保育の質の向上

- ・振り返りを通して保育を改善し、次につなげるサイクルを意識することの大切さを学んだ。
- ・ドキュメンテーションでは、子どもの「トキメキ」や「できた」の瞬間を写真や言葉で記録し、保護者や職員間で共有することで保育の価値を可視化できると感じた。
- ・指導計画や月案に子どもの興味や気づきを反映させることで、より実践的で意味のある保育が実現できると気付いた。

B: 本日の学びや気づきを生かし、今後どのように取り組もうと思われませんか。

1. 子どもとの関係性を深めるための「共感的なまなざし」の実践

- ・子どもの姿をただ見るのではなく、「何を感じているのか」「何に心が動いているのか」を読み取るような、共感的なまなざしを持って関わっていききたい。
- ・子どもが発する「やってみたい」「こうしたい」というサインを受け止め、保育者自身も一緒に遊びながら、子どもの世界を共有する姿勢を大切にしたい。
- ・子どもの発見や気づきを保育者が感じ取ることで、子どもとの信頼関係が深まり、より豊かな保育につながると感じた。

2. 遊びの質を高めるための環境と素材の工夫

- ・子どもが夢中になれる遊びを支えるために、素材や空間の準備を丁寧に行い、子どもが自ら遊びを展開できるような環境作りを意識していききたい。
- ・子どもが「ときめく」瞬間を生み出すために、保育者が先回りして用意するのではなく、子どもの興味に応じて柔軟に対応することが大切だと感じた。
- ・音楽や運動など、子どもが自分らしく表現できる活動を通して、遊びの幅を広げる工夫をしていききたい。

3. 保育の振り返りとチームでの共有を通じた学びの継続

- ・自分の保育を振り返る時間を意識的に持ち、子どもの姿から得た気づきを次の保育に生かすサイクルを継続していききたい。
- ・ドキュメンテーションを通して、子どもの「トキメキ」や「できた!」の瞬間を記録し、保護者だけでなく職員間でも共有することで、チームとしての保育の質を高めていききたい。